

ローマは幻を確証する——その十四

キリストの反映と獣の像の形成：終末の時代における預言的な類比

Jeff Pippenger

2024-09-02

アメリカ合衆国が獣に倣い獣の像を造る時を特定する予言の筋道は、プロテスタンティズムの角がキリストの像を形づくっている時に当たる。その形成は、ダニエル書第十章において、ダニエルが原因となる鏡「marah」の幻を見たときに、明確に特定されている。ダニエルはキリストを見つめる者たちを代表し、そうすることで彼らはキリストの品性を映し出す。第十章でダニエルによって代表されている十四万四千人は、彼の品性を見つめることによってのみ、内にキリストの像を形づくる。見つめることによって彼らは変えられる。

獣の像は獣を映し出す。また、獣の像の形成は神の民にとっての大いなる試練であり、そのことによって彼らの永遠の運命が決せられる。プロテスタント諸教会がアメリカ合衆国の政府を掌握するとき、彼らは、教皇権が政治的支援を失う以前に用いていた支配構造を示す教会と国家の体制の像を形づくったことになる。同じ時期に、終わりの時代の御自分の民のうちにキリストの御姿が形づくられる。しかし、ダニエルと共にいた者たちの中には、その幻を見なかった者もいた。彼らはその幻から逃げ去ったからである。彼らは、試みの時に自分たちの内にキリストの御姿が形づくられるのを拒んだため、獣の像の形成という試験に失敗したのである。

反射という霊的原則は、キリストを表す鏡をのぞき込むことによって成就される。そして「marah」の幻は原因となる幻であるため、鏡の中のキリストの像が、人間のうちにキリストの像を生み出す。文字通りの鏡は、鏡を見る人の像を映すが、この原則の霊的な適用には、鏡に関わる可変の要素がある。単に「御言葉を聞くばかりで、行う者ではない」者は、「自分の姿を眺め、去って行くと、すぐに自分がどのような者であったかを忘れてしまう」。彼らは鏡を見ても、人間性しか見ない。

「すぐに忘れる聞き手ではなく、わざを行う者」であるもう一方の人々は、神の律法を見、鏡の中にキリストを見る。そのわざとは、反映の原則には「自然」の現実と霊的な現実があることを理解することだ。ダニエルは、その「わざ」を行った者たちを示している。というのも、9章と10章において、彼は反映の霊的原則を生み出すそのわざを示しているからである。

そのころ、私ダニエルは三週間、嘆き悲しんでいた。三週間が満ちるまで、私はごちそうを食べず、肉もぶどう酒も口にせず、身に油を塗ることもしなかった。ダニエル書10:1、2。

ガブリエルはダニエルに第八章の幻について部分的な解釈を与えていたが、ダニエルはそれを完全には理解していなかった。

そして、私ダニエルは気を失い、幾日かの間病んだ。のちに私は起き上がって王の務めを果たした。私はその幻に驚愕したが、それを理解する者はだれもいなかった。ダニ

エル書 8:27.

ホワイト夫人は、ダニエルが、ガブリエルがダニエル書第九章で彼に伝えた、ダニエル書第八章のメッセージの解釈を理解しようとしていたと私たちに知らせている。

新たに、より深い切実さをもって、ミラーは預言の精査を続けた。いまやそれが途方もなく重要で、心をことごとく奪うほどの関心事であると思えたため、昼も夜もその研究に打ち込んだ。ダニエル書8章では、二千三百日の起点の手がかりは見いだせなかった。ダニエルにその幻を悟らせるよう命じられていた天使ガブリエルも、彼に部分的な説明しか与えなかった。教会に降りかかる恐るべき迫害が預言者の幻のうちに明らかにされるにつれ、ダニエルの体力は尽きた。彼はこれ以上耐えられず、天使はしばらくの間彼のもとを離れた。ダニエルは「気を失い、幾日か病んだ」。彼は言う。「わたしはその幻に驚きあきれたが、それを悟る者はなかった。」

しかし神はその使者にこう命じておられた。「この人にその幻を悟らせよ。」その使命は果たされねばならなかった。それに従って、後になって天使はダニエルのもとに戻り、こう言った。「今、私はあなたに知恵と悟りを授けるために来た。ゆえにこの事を悟り、幻を思いめぐらせよ。」ダニエル書 8:27, 16;9:22, 23, 25-27. 第8章の幻には、なお説明されないまま残されていた重要な一点があった。すなわち、時に関すること—二千三百日の期間である。ゆえに天使は説明を再開するにあたり、主として時の問題を取り上げた。『大いなる論争』325.

第十章では、ダニエルが「幻」と「事柄」を悟っていたことが記されているが、彼はなおもさらに光を求め、その理解を得ようと心に定め、二十一日間断食した。こうすることで彼は、自然界の反射の原理を型として示されている霊的な反映の原理を理解している終末の人々を表している。その理解は彼らの行いによって示され、彼らの行いは、神の預言の言葉の正しい理解を求めることとして、ダニエルにおいて表されている。幻から逃げ去った者たちとの明白な対照は、彼らが神の預言の言葉の正しい理解を求めていなかったという点である。

ダニエルが理解を飢え求めていると描かれている神の預言の言葉の真理は、終わりの時代の光である。というのも、ダニエルは十四万四千人を予表しているからである。したがってダニエルは、恩恵期間が閉じる前の最後の試練として表されている神の預言の言葉の光を理解しようと求めている一群の人々を表している。この点で、恩恵期間が閉じる直前に封印が解かれるのはイエス・キリストの黙示であり、同時にそれは獣の像の形成として表される試練でもある。

獣の像の形成は、獣の像がどのように形成されていくのかという過程を直接的に明らかにしている。その実態は、まず試みの主要な対象である獣を特定しない限り、正しく見極めることはできない。像がどのように形成されるかを定め、明らかにするのは、獣にほかならない。

しかし、「獣への像」とは何か。それはどのように形づくられるのか。像は二本の角を持つ獣によって作られ、獣への像である。また「獣の像」とも呼ばれる。したがって、その像がどのようなものか、またそれがどのように形づくられるのかを知るためには、獣そのもの—すなわち教皇制—の特性を研究しなければならない。

初代教会が福音の単純さから離れ、異教の儀式や慣習を受け入れて墮落したとき、教会は神の霊と力を失った。そして人々の良心を支配するために、世俗の権力の支持を求めた。その結果として現れたのが教皇制であり、教会は国家の権力を支配し、それを自らの目的、特に「異端」を処罰するために用いた。合衆国が獣の像を形成するためには、宗教勢力が世俗政府を支配し、国家の権威が教会によっても自らの目的を達成するために用いられるようにしなければならない。The Great Controversy, 443.

「『像がどのようなもので、どのように形成されるのかを知るためには、獣そのもの—すなわち教皇制—の特質を研究しなければならない。』というのである。猶予期間が閉じられる直前にもたらされ、終末の試金石となるその幻を確立するのは、獣である。ダニエルはその幻とその事柄を理解した。」

ペルシアの王クロスの第三年に、ダニエル、すなわち名をベルテシャザルと呼ばれた者に、一つの事が示された。その事は真実であったが、その定められた期間は長かった。彼はその事を理解し、幻を悟った。ダニエル書 10:1.

その幻は、二千三百年に関する「mareh」の幻である。「thing」はヘブライ語の「dabar」で、「言葉」を意味する。一節で「thing」と訳されている同じ語（「dabar」）は、九章二十三節では「matter」と訳されている。

さて、私が祈りのうちに語っている間に、初めのときの幻で私が見たその人ガブリエルが、急ぎ飛んできて、夕のささげ物の時刻に私に触れた。彼は私に知らせ、私に語って言った。「ダニエルよ、私は今、あなたに知恵と悟りを与えるために出て来た。あなたの願い求めの初めに命令が出され、私はそれをあなたに示すために来た。あなたは非常に愛されているからである。だから、この事を悟り、この幻を心に留めよ。」ダニエル書 9:21-23.

ガブリエルはダニエルの祈りに応えて彼のもとに現れるが、この祈りは、彼が自分はレビ記26章における離散によって表される捕囚の中にいるのだと理解したときに与えられた洞察と結びついている。

彼の治世の第一年に、私ダニエルは、書物によって、預言者エレミヤに臨んだ主の言葉にある、エルサレムの荒廃が七十年で満ちるという年数を悟った。ダニエル書 9:2

エレミヤが示した捕囚は、ダニエルを、モーセが記した「七つの時」の捕囚へと導き、それは「誓い」であり同時に「呪い」でもあった。

まことに、イスラエルのすべてはあなたの律法に背き、離れ去って、あなたの御声に従いませんでした。そのゆえに、神のしもべモーセの律法に記されている呪いと誓いが私たちの上に注がれました。私たちがあなたに対して罪を犯したからです。あなたは、私たちに、また私たちが裁いた裁き司に対して語られた御言葉を、私たちの上にもたらした大いなるわざわいによって確かなものとされました。天の下のどこにも、エルサレムになされたほどのことは、かつてなされたことはありません。モーセの律法に書かれているとおり、このすべてのわざわいが私たちに臨みました。それでも私たちは、私たちの不義から立ち返ってあなたの真理を悟るために、私たちの神、主のみ前に祈りをささげませんでした。ダニエル書 9:11-13

エレミヤとモーセという二人の証人の証言にもとづいて、ダニエルは、エルサレムにもたらされた荒廃が、古代イスラエルに「注がれた」モーセの「のろい」であったことを理解した。ホワイト姉妹はエレミヤの証言を「教会への証言」と呼び、この呼称によってエレミヤを終末時代の預言の霊として示している。というのも、終末における「教会への証言」とはまさにこのことだからである。エレミヤは預言の霊を、モーセは聖書を表している。

ダニエルは、終わりの時代において、二人の証人から自分たちが散らされてきたことを理解し、また聖書と預言の霊から自分たちが目を覚まされたのだと理解している人々を表している。これは、ダニエル自身が、自分（彼ら）が捕囚の身にあったこと、そしてその捕囚が神の預言のことばにおいて示されていたことを悟らされたのと同様である。

終末時代の神の民の経験は、十人のおとめの経験である。

「マタイ25章の十人の乙女のたとえは、アドベンチストの人々の経験も示している。」
『大いなる論争』393。

十人の乙女のたとえにおける遅れの時は、ダニエル書第九章におけるダニエルの同じ目覚めを表している。二人の聖別された証人を根拠として、ダニエルは自分の生涯全体が神の御言葉の中の特定の預言の成就であることを悟った。その預言は、まさに次の章で彼に起ころうとしていることに備えるために必要な解決策へとダニエルを導いた。同様に、ミラー派が十人の乙女のたとえを成就したとき、彼らもまた、最初の失望と遅れが自分たちを眠りに陥らせていたという事実気づかされる必要があった。すべての預言者は終わりの時代を表している。

ダニエルの覚醒とミラー派の覚醒は、終わりの日における十四万四千人の覚醒の二人の証人である。

「イエスとすべての天の軍勢は、魂の愛するお方を見たいと甘い期待をもって切に待ち望んでいた人々を、同情と愛をもって見つめておられた。天使たちは彼らの周囲に漂い、試練の時に彼らを支えるために寄り添っていた。天からのメッセージを受け取れることを怠った者たちは暗闇に置き去りにされ、神の怒りが彼らに対して燃え上がった。神が天から彼らに送られた光を受け入れようとしなかったからである。忠実でありながら失望し、主がなぜ来られなかったのかを理解できなかった人々は、暗闇の中に捨て置かれることはなかった。彼らは再び聖書に導かれ、予言の期間を調べた。主の御手はその数から取り除かれ、誤りが明らかにされた。彼らは、予言の期間は1844年にまで及び、予言の期間が1843年に閉じると示すために自ら提示していたのと同じ証拠が、それらが1844年に終結することを証明しているのを見た。神の御言葉からの光が彼らの立場を照らし、彼らは遅れの時を見いだした-『それ[幻]が遅れても、それを待て。』キリストのただちの来臨への愛ゆえに、真の待望者を現すために計られていた幻の遅れを、彼らは見落としていた。彼らは再び期日を得た。だが私は、彼らの多くが、その激しい失望を乗り越えて、1843年に彼らの信仰を特徴づけていたあの程度の熱心さと活力を持つことができないのを見た。」 初期の著作、236頁。

たとえの成就において、ミラー派は「幻の遅れを見落としていた」が、彼らは「再び」「自分たちの聖書に導かれて預言の期間を調べる」ことになった。「主の御手」は数字か

ら取り除かれ、誤りが説明された。ダニエルは聖書へと導かれ、「主の御手」は「預言の期間」から取り除かれた。そして、ダニエルが、ただの聞き手ではなく実行する者として、積極的な信仰によって、レビ記二十六章に与えられた指示と、神の民が散らされた状態に対する救済と解決を実行することで、エレミヤとモーセのメッセージを理解していることを証明したとき、「説明」がダニエルに与えられた。

終わりの日に、そのたとえ話が最終的かつ最も完全に成就するとき、十四万四千人はそのたとえ話の待機の時を全うするが、彼らがそれを行うのは「獣の像の形成」が彼らにとって大いなる試練となる時期である。

これらの考察は次回の記事で続けます。

「実がなれば、ただちに彼は鎌を入れる。刈り入れの時が来たからである。」キリストは、ご自身の教会のうちにご自身が現されることを切に待ち望んでおられる。キリストの品性がその民のうちに完全に再現されるとき、キリストは彼らを御自分のものとするために来られる。『キリストの実物教訓』69。

世界を覆い隠しているのは、神についての誤解という暗闇である。人々は神の御品性についての知識を失いつつある。それは誤解され、曲解されてきた。今この時、神からのメッセージが宣べ伝えられるべきである。人々を照らし、その力によって救うメッセージである。神の御品性が明らかにされなければならない。世の暗闇に、神の栄光の光、すなわちその慈しみ、憐れみ、そして真理の光が注がれるべきである。

これは、預言者イザヤが次の言葉で述べた働きである。「良い知らせを伝えるエルサレムよ、力をもって声を上げよ。声を上げよ、恐れるな。ユダの町々に言え、『見よ、あなたがたの神！』見よ、主なる神は力強い御手をもって来られ、その御腕は御自分のために治める。見よ、その報いは御もとにあり、その働きは御前にある。」イザヤ書40章9、10節。

「花婿の来臨を待つ者たちは、人々に『見よ、あなたがたの神を』と言うべきである。あわれみの光の最後の光線、世に与えられる最後のあわれみのメッセージは、神の愛の品性の啓示である。神の子らは、神の栄光をあらわすべきである。彼ら自身の生活と品性において、神の恵みが彼らに何をなして下さったかを示すのである。」『キリストの実物教訓』415。